

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第11回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ・地域活性化の方向性について
- ・意見交換（グループワーク）

(2) 自主的審議事項（公開）

- ・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について
- ・意見書の内容について（グループワーク）

(3) 報告事項（公開）

- ・地域独自の予算の事業一覧について

3 開催日時

令和5年3月17日（金）午後6時30分から午後8時20分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：青木正紘（会長）、井澤裕一、上野秀平、玄蕃郁子、高橋清司（副会長）
田中利夫、塚田春枝、日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席3名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：日向副会長

次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活性化の方向性について」に入る。事務局から説明を求める。

【山崎主事】

- ・グループワークの進め方を説明

【青木会長】

我々は今まで中学校跡地の問題に焦点を絞って進めてきたが、それはいろいろある高土区の課題の中の一つである。今回は少し広い視野で高土区の課題について話し合うということである。

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

それでは、グループワーク分け等について事務局から説明願う。

【小林センター長】

- ・グループワークについて補足説明

【青木会長】

ではグループワークを始めてほしい。

— グループワーク（約30分） —

会議を再開する。

では、グループワークの結果について、報告願う。

【小林センター長】

1 班の発表を行う。

たくさん課題が出てきた。それをグループに分けると、一番多かったのが「子どもがいない」ということであった。「少子高齢化」「人口減少」という話があった。

次に、「まとめる人がいない」ということであった。女性の活躍と言うが、女性は地域

から離れてしまう。人材がないという話があった。それと相まって、「交流機会がない」「世代間の交流がない」という意見が出た。

その他の意見としては、高士は割と保守的な土地柄であり、なかなか前が出る人がいないという話もあった。ここまでが「人」にまつわる話である。

次に、「場所」の話である。集う集会所がない、お店がない、逆に空き地や空き家が多いという問題がある。それと相まって、観光する場所もない、働き口もない、交通も不便だという話も出た。

ここまで、不足しているものの話が出てきた。ただ、不足している中でも逆転の発想ができるのではないかと考えた。それを考えられれば突破口になるのではないかと。

そこで例に出たのが、妙高市である。妙高は今外国人ですごく溢れている。何もない山の中だと思ったけれど、そこに外国人を引き付ける何かがあったのではないかと。

高士についても、例えば外部の人から見てもらって意見を聞くと、何か分かるのではないかとという意見が、最後に出た。

そのほかにも非常に驚くような話も出たが、それらは置いておいて、あとは地域協議会の認知度が低いということも課題として出た。1班の発表は以上である。

【山崎主事】

2班の発表を行う。

2班でもたくさん出た意見をグループに分けて整理した。

一番多かったのが「少子高齢化」という課題であった。

その影響もあるかもしれないが「交通の便が悪い」「コンビニがない」という意見も出た。

また「人口減少」「世帯数減少」の影響により、「空き家や空き地が増えている」という意見も出た。

そのほか「各種団体のつながり」「団体の担い手が少ない」「世代間の交流が少ない」という意見も出ていた。

ただ、そういった状況の中でも、高士では「高士ルミネ」という活動があり、今年もとても好評であった。例えば、現在無料にしているふるまいを有料化するなどして、活動を継続していけるような工夫をしたり、男の料理教室の活動がもっと地域に広がっていったりするとよいという話も出た。

そのほか高士区の中では、飯田町内会の祭りなど、若い人が元気に活動しているところ

ろもあるので参考にしたいという話もあった。2班の発表は以上である。

【小林センター長】

期せずして2班とも同じ課題が出てきた。

特に少子化や人材、若者の交流など、「人」にまつわる課題が共通していたと思う。また空き家や空き地などの「場所」の課題も出ていた。

今日は皆さんから課題を出していただいたので、次回はそれをもとに方向性に繋げていきたいと思う。

会長はいかがか。

【青木会長】

ないものの話をしてもどうしようもないので、その中でできることを考えていきたいと思う。

【松山委員】

子どもが少なくなることは致し方ない。もっとグローバルに考えることも必要である。

【高橋副会長】

ニュースで見ると人口が増えている地域もある。増えている理由を知ることも必要。

【小林センター長】

いただいた意見を基に、次回以降まとめていきたいと思う。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」に入る。引き続き事務局から説明する。

- ・他地域の遊休土地利用の事例について紹介
- ・資料1、資料2に基づき、前回の意見や集計結果を報告

この後のグループワークでは、資料2から意見書に載せたいソフト事業を2つ選んでほしい。そして、そのために必要なハード整備についても話し合ってもらいたい。それを基に次回意見書の内容をまとめていく。

— グループワーク（約20分） —

会議を再開する。

では、グループワークの結果について、報告願う。

【小林センター長】

1班の発表を行う。

1班では最初に⑥の「花畑があって散歩ができる広場」としての利用がふさわしいと

いう話が出た。次に⑤の「芝生があり、地域が利用しやすい広場」としての利用という意見も出た。

なぜ⑤⑥かという、それぞれ場所を分けてできるということが一つの理由だと思う。そうすると水やりが必要になるので、水道が必要だという話もあった。ただ、水やりのためであれば、飲料用でなくてもよいということであった。

また、人が見に来るとなると、落下防止ネットがあったほうがよいという意見も出た。具体的な意見のほかにも、活動の積み上げや、広場の認知度を上げる取組も必要だという話や、町内会長さんとの話し合いなどを通して、この意見が高士区全体の意見だということ話し合う機会を持たなければいけないという意見も出た。1 班の報告は以上である。

【山崎主事】

2 班の発表を行う。

実は2 班も1 班と同じように、⑤・⑥の芝生や花の植栽をして広場として活用したいということにまとまった。

というのも、この後報告する地域独自の予算の中にも、植栽の事業がいくつか挙がっており、この制度を活用できる可能性があるということと、広場の状態にしておくことで、他の項目にあるイベントやキャンプ場などにも活用でき、活動の広がりが見込めるからである。

花の植栽については、現在草刈りに協力いただいている方々や、振興協議会等から協力いただき、近所に植栽をしている町内会もあるので、そういったところを参考にやり方を考えていけばよいという話も出た。

逆に、①の「夏祭りや塞の神、地区体育大会」については、わざわざスポーツ広場でやるメリットがなく、実態に合わないという話があった。

また植栽のためには、飲料水までではなくても、水を出したほうがよいという意見もあった。2 班の発表は以上である。

【小林センター長】

皆さんからフリーディスカッションで出していただいた意見は、次回までに事務局で記録を作成し、絞り込みをしていきたいと思う。

【青木会長】

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡

地)の活用策について」を終了する。

次に次第2議題「(3)報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」に入る。
事務局から説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料3に基づき説明

【青木会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

【青木会長】

以上で次第2議題「(3)報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1)次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：4月20日(木) 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・内容：自主的審議事項

今後の開催日は第3木曜日を基本とする。

その他、何かあるか。

【小林センター長】

- ・藤井係長の異動(転出)について報告

【藤井係長】

- ・挨拶

【高橋副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。